土木学会誌アンケート結果報告：その３土木学会誌 PDF 公開に対する会員の認識

五洋建設　正会員　○菊原　紀子
広島工業大学　正会員　田中　聖三
三井住友建設　正会員　田邊麻由子
国士舘大学　正会員　二井　昭佳

１．目的

土木学会誌第 108 巻 6 号（2023 年 6 月発刊）では「これからの時代の土木学会誌のありかたを考えよう」と題し，会員や土木学会誌の読者となりうる方へ学会誌に関するアンケートを実施した[1]．本稿では土木学会誌のウェブサイトでの土木学会誌 PDF の公開に対する会員の認識について報告する．なお，会員の属性や購読率などはその 1，その 2 を参照いただくか[2)3)]，土木学会誌ウェブサイトをご覧いただきたい[4)]．

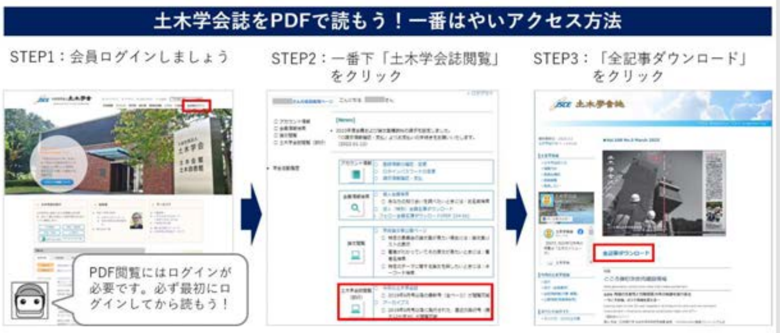
２．土木学会誌ウェブサイトでの公開状況

（１）土木学会誌電子版試行（PDF）

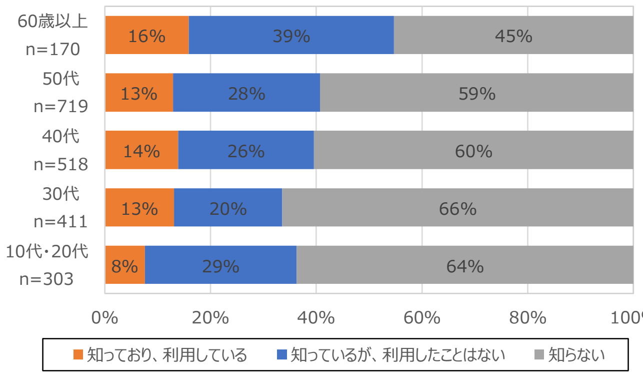
土木学会誌は 1915（大正 4）年 4 月に創刊し，土木学会員の特典として毎月約 4 万部を発行している．またウェブサイトも開設しており，土木学会誌の最新発行情報，過去のアーカイブ等が閲覧できる．一部の記事（会長関連記事や学生企画など）は発行と同時に一般にも公開しており，教養誌として土木分野を社会にアピールする一助となっている．また，会員は，土木学会誌の「電子版（試行）」を PDF データで閲覧したりダウンロードすることが可能である．電子版（試行）の閲覧方法を**図−1** に示す．

（２）土木学会誌 PDF 公開の認知度

図−2 に土木学会誌「電子版（試行）」による PDF 公開の認知度を示す．「知っていて利用している」「知っているが利用していない」「知らない」の選択肢に対し，「知っていて利用している」割合は，中壮年層（30～50 代），シニア層（60 歳以上）で 13~16%，若年層（10・20 代）で 8%であった．若年層の認知度が低い理由として，若年層の土木学会誌の購読率が他の年代よりも低いことがアンケートで報告されており，「電子版（試行）」も知らないと思われる．また，「知っているが利用していない」も各年代で 20～39%もおり，PDF 公開が十分に活用されていない現状が分かった．



図−1　土木学会誌 PDF の閲覧方法



図−2　土木学会誌 PDF 公開の認知度

３．土木学会誌 PDF 公開に対する自由意見の整理

（１）共起ネットワークの実施

アンケートでは認知度と合わせて土木学会誌 PDF 公開に対する自由意見欄（任意回答）を設けたところ，幅広い意見が集まった．そこで， PDF 公開に対

キーワード　土木学会誌，アンケート，電子版
連絡先　〒329-2746　栃木県那須塩原市四区町 1534-1　五洋建設株式会社　TEL：0287-39-2100

© Japan Society of Civil Engineers

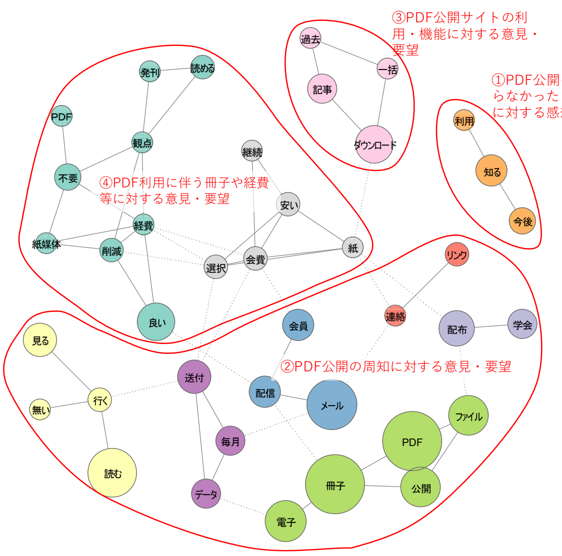
する自由意見についてテキストマイニングの分析方法の一つである共起ネットワークを実施し，意見・要望の整理を試みた．ここでは，計量テキスト分析やテキストマイニング専用のフリーソフトウェア「KH coder」[5)]を利用した．これは形態素解析システムから言葉を抽出し，言葉同士のつながりの強さを統計的に解析するソフトウェアである．

（２）自由意見の整理

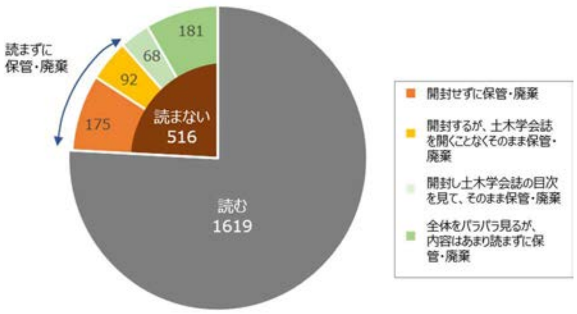
図−3 に共起ネットワーク結果を示す．「メール」「配信」「PDF」「ダウンロード」「連絡」など多様な言葉が相互につながっている．これらの言葉のつながりを整理すると，「①PDF 公開を知らなかったことに対する感想」，「②PDF 公開の周知に対する意見・要望」，「③PDF 公開サイトの利用・機能に対する意見・要望」，「④PDF 利用に伴う冊子や経費等に対する意見・要望」の 4 分野に区分できた．

（３）土木学会誌の課題

前述①～④の意見・要望から，土木学会誌の現状の課題を整理した．①, ②周知不足や周知方法に関する意見・要望は，毎月 1 回土木学会メールニュースで学会誌の発行やウェブサイトのリンクを周知しているが，多くの情報の中で認知されていない可能性がある．③は PDF の閲覧・ダウンロードにあたって，「電子版」試行ということもあるが，ログインが必要，ダウンロードは一括のみ，容量が大きくダウンロードに時間がかかる等，使いやすさに課題があると言える．④は会員特典として全員に毎月冊子送付されているが，アンケート結果では回答者の約 12%が学会誌を読まずに保管・廃棄していた（**図−4**）．資源保護の観点からも会員の要望に合わせて冊子版や電子版が選択できる等の工夫が求められる．



図−3 共起ネットワーク結果



図−4 保管・廃棄タイミング

４．まとめ

会員の土木学会誌「電子版」試行（PDF）の認知度・利用率は低く，十分に活用されていないことが分かった．自由意見欄の分析から，電子版（試行）は毎月の発行が伝わっていない可能性や使い勝手の悪さから利用してない可能性が考えられた．近年，YouTube など配信媒体の多様化，ビジネススタイルの多様化の中で，会員の電子媒体の利用方法も変化している．編集委員会では土木学会 WEB 情報誌『from DOBOKU』[6)]と協力して，で学会誌の発行のお知らせや動画による紹介等新たな試みも行っているが，これからも多くの会員に読まれる学会誌であるために，学会誌も柔軟に対応した取り組みが必要である．しかしながら読者の声は編集委員に届く機会は少ないため，5～10 年ごとにアンケートを実施し要望や（読み方の）変化を把握し，学会誌自体も変化していくことが重要だと思う．

謝辞： アンケートの回答者ならびにアンケートの周知にご協力くださいました方々に心からお礼申し上げます．

参考文献

1)土木学会(2023)：土木学会誌第 108 巻 6 号「これからの時代の土木学会誌のありかたを考えよう」

2)田中ら(2023)：土木学会誌アンケート結果報告その 1，第 78 回土木学会年次講演会

3)田邊ら(2023)：土木学会誌アンケート結果報告その 2，第 78 回土木学会年次講演会

4)土木学会誌ウェブサイト：https://www.jsce.or.jp/journal/index.shtml

5)KH coder：https://khcoder.net/

6) 土木学会 WEB 情報誌『from DOBOKU』：https://from-doboku.jp/

© Japan Society of Civil Engineers